

1998年12月の大気大循環と世界の天候

北半球500 hPa 高度場をみると、極渦はバフィン島付近、カラ海、オホーツク海北部に分裂して存在し、カナダから大西洋北部にかけてとシベリアからオホーツク海にかけて負偏差域となった。一方、ポーフォート海からアラスカにかけてと中緯度帯のほぼ全域で正偏差となった。30 hPa 高度では、極渦はタイミル半島付近に、アリュシャン高気圧はアラスカ湾に位置し、波数1の循環が卓越した。月半ばには比較的顕著な成層圏突然昇温が見られた。

インド洋東部から海洋大陸、オーストラリア北部にかけて、対流活動が平年より活発だった。一方、インド洋中部と太平洋西部から中部にかけて平年よりも不活発だった。太平洋赤道域の東西循環は平年よりも強く、SOI（南方振動指数）は+1.5で7か月連続して+1.0以上となった。

世界の天候

① 韓国から西日本にかけての少雨

インド北部からインドシナ半島にかけてと、中国中部から西日本にかけて少雨となった。特に、韓国から西日本にかけてかなり少なく、韓国の釜山では3 mm（平年比11%）となった。

② アジアの高温

シベリア南部から日本南部にかけて月平均気温がか

なり高くなった。また、アジア南部でもインド南部を除きかなり高かった。モンゴルのムルンで -12.9°C （平年差 $+6.8^{\circ}\text{C}$ ）、パキスタンのカラチで 22.3°C （平年差 $+2.7^{\circ}\text{C}$ ）を記録した。

③ ロシアの多雨

ロシアのサクトペテルブルグで69 mm（平年比143%）となった。

④ ヨーロッパ南東部の低温

ヨーロッパ南部では低温傾向となり、特に南東部でかなり低くなった。ハンガリーのデブレツェンでは -5.5°C （平年差 -5.3°C ）となった。ドイツ、ポーランド、ギリシャ、ロシアなどヨーロッパ中部以東の各地では寒波や大雪による被害が報じられた。

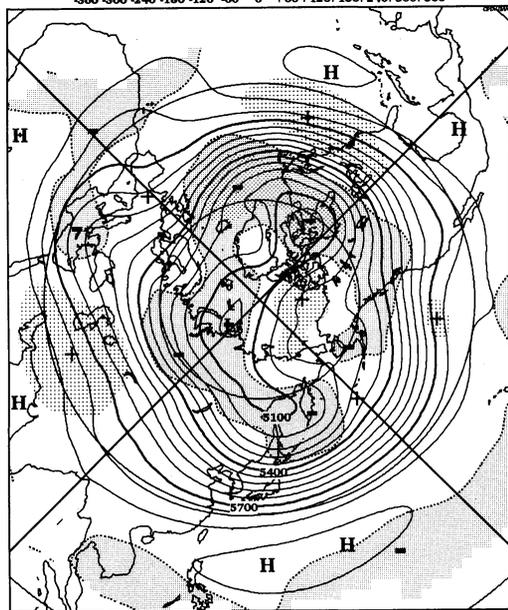
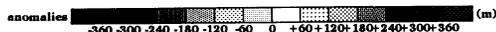
⑤ トルコの多雨

トルコで多雨となった。トルコのコンヤでは114 mm（平年比258%）となった。

⑥ 中東の高温

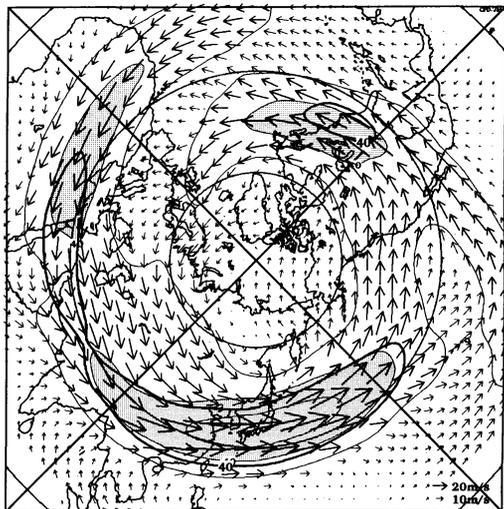
月平均気温がトルコから中東にかけてかなり高くなった。サウジアラビアのメディナでは 22.3°C （平年差 $+3.3^{\circ}\text{C}$ ）となった。

（気象庁気候・海洋気象部気候情報課 神野正樹）



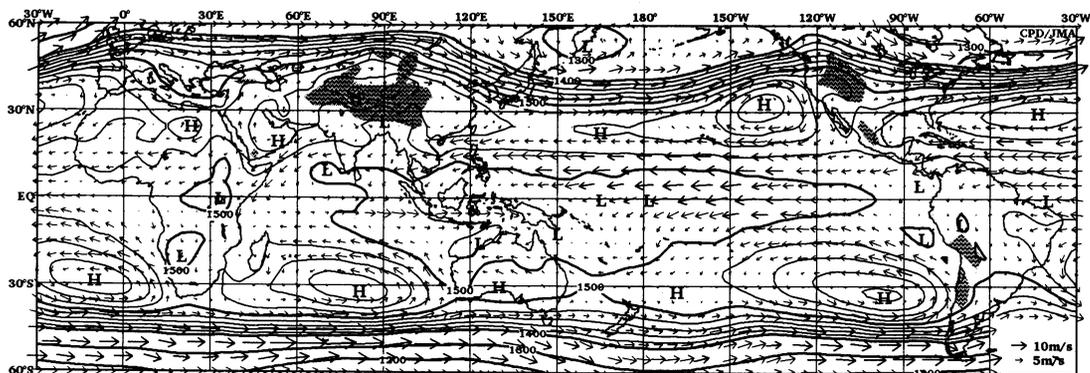
1998年12月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は60 m, 平年値は1961~1990年のデータに基づくもの。

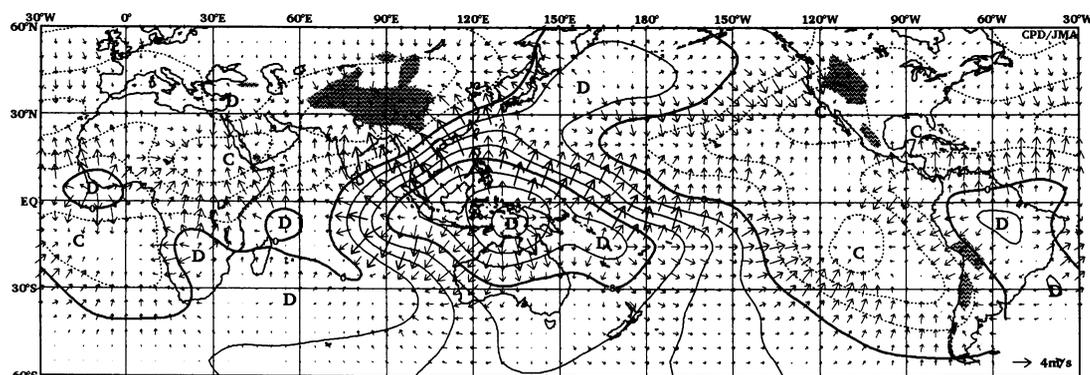


1998年12月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

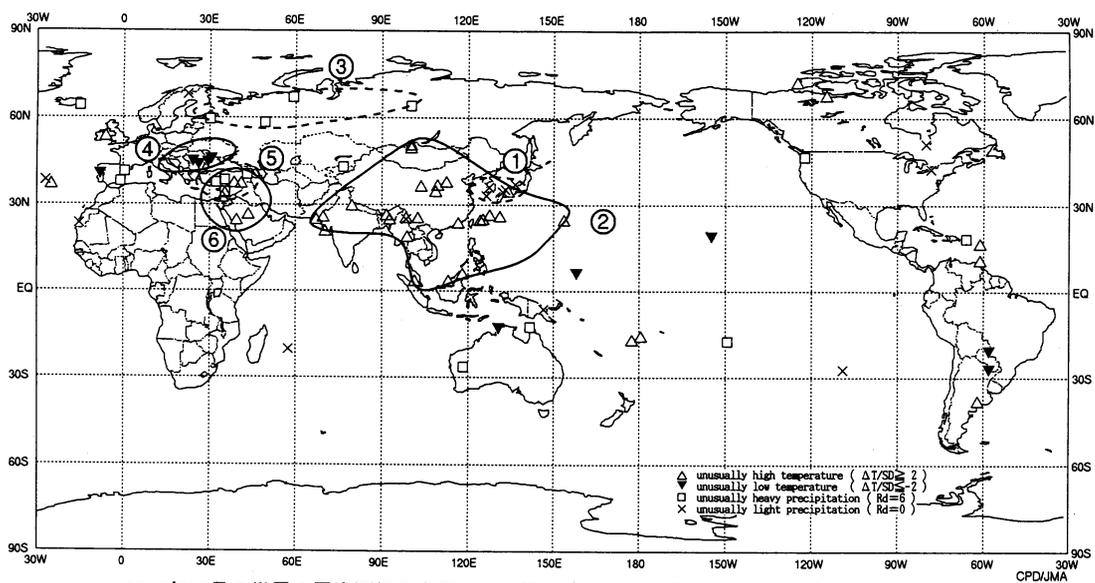
等値線間隔は20 m/s, 陰影部は平年で40 m/s以上, 平年値は1979~1996年のデータに基づくもの。



1998年12月の月平均 850 hPa 高度および風ベクトル 等値線間隔は 20 m (1400 m までは 100 m)



1998年12月の月平均 200 hPa 速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



1998年12月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.